

## クラウンジョイントリサイタル

クラウンジョイントリサイタル代表 海老澤宏升

平成 13 年 9 月 16 日に日本でも最大級の収容人員を誇る東京有楽町の東京国際フォーラム A ホール（五千人収容）で関東ジョイントリサイタルが開催された。

第 1 部は作詞者の丘灯志夫先生に許可を戴いた男女混合の吟詠コーラス「日本を愛す」を上演し、

第 2 部は平素ご出演戴く社中の他に、吟詠は（敬称略）山岡哲山・山本賀陽・河野鶴声・剣詩舞は多田正満・多田正稔・青柳芳寿朗・鈴木凱山・早淵鯉將、新進剣詩舞道家の入倉昭山・青柳弦太郎・多田正晃・見城星舟、各先生のご出演を戴いた「吟詠と剣詩舞」を上演し、平素鑑賞することの少ない先生方の吟詠と演舞に観衆は魅了された。

第 3 部はスーパースペクタクル吟詠「ニュー孫悟空」で吟詠、剣詩舞、京劇の織りなす壮大な企画構成に観衆は衝撃の眼差しで魅入り、吟剣詩舞界のニューウェーブを感じたと好評を博しました。ジョイントリサイタルを鑑賞して戴いた浪口宗神先生が、所属する会への寄稿文を先生の許可を戴きましたので原文のまま掲載致します。

.....

| 吟界再生への道 | 吟界にも急速な変貌の兆しが！ 浪口宗神

.....

親しくしている吟友の二人が中心になってジョイントリサイタルを催すとの知らせを受け、たまたま、東京都庁跡にできた東京国際

フォーラムに出かける機会を得た。行ってみて、まず五千人収容のホールの大きさに驚き、A席五千円の会員券に驚き、客席の人数に仰天した。詩吟の会をこんなところで、しかも半端でない額の有料公演としてよくもまア！と、本当に驚いた。

ところが、幕が上がってからの驚きは、さらに加速した。当日の目玉は、スーパースペクタクル吟詠と副題を付した「ニュー孫悟空」と題した、いわゆる構成吟であった。企画、脚本、音楽、演出等々、すべてを二人の吟友が担当し、少壮吟士の実力を持つ当人達も出演したものであったが、何より驚かされたのは、中国の京劇（十名参加）とのジョイントで構成していたことである。

京劇と吟詠、剣詩舞が絶妙の演出で違和感なく見事なまでに演じられたが、私の関心を惹いたのは、そのことより、わざわざ中国から呼んだ京劇もそうだが、語りをプロの講談師に、又、孫悟空他のセリフを声優にというように、他の芸術分野のプロとのジョイントに勇敢にチャレンジした点であった。

口先では多くの人が「吟詠芸術」の向上を言っているが、反面、なまじチャレンジを試みる人がいると、批判だけを得意とする人ばかりと言っても過言ではないのが実状である。それでいて、吟詠の普及は難しいと嘆いてばかりいるのだが、本当にそんなに難しいのだろうか、あの大会場の群衆を見て強くそう思ったことである。あの群衆は一人として当日の出演者ではないし、皆、望遠鏡が必要なC席（三千円）以上の券を争って手に入れた人ばかりなのである。

皆さん、きっと嘘だろう、そうでなければ会費増強のために誇大広告のうたい文句かと思われるに違いない。しかし、事実なのであるから、もし疑いを持つとしたら、ひよっとすると吟界の変貌に気付かず、取り残されているのかも知れないとしか言いようがない。

さらに疑うのなら、私以外にも本学院の会員の方が大勢来場されていたので、お尋ねいただきたい。

吟界にこうした変化が如実に顕れはじめたのは、ここ数年来のことである。

私はそうした兆候を吟界の構造改革として捉え注目していた。従来の吟界は一層構造、つまり愛好者だけの世界で、したがって客席は出番待ち席を兼ねていた。どんな芸能、またはスポーツでも市民権を得ているものは、プロ集団の層、プロの魅力が作るファン層、そして愛好者、つまりアマチュア層の三者になっている。吟道普及イコール会員増強との発想では労多くして益少なしだが、魅力あるプロは一人で何千何万のファンを作ることが出来る。認可団体ベースでは無理なようだが、他分野のプロとのジョイントでめざましい普及実績をあげている富山千吟会の例が身近にあるではないか。

なにはさておき、吟界の変化に遅れることだけにはなりたくないものである。